

(2) 北海道大学 バランスドオーシャン運用部

- ・日時 : 2022年8月31日(水) 10時30分～12時00分
- ・場所 : 北海道大学 函館キャンパス 水産学部 会議室
- ・参加者 : 北海道大学 3名

向井 徹様 大学院水産科学研究所 教授
 大木 淳之様 大学院水産科学研究所 准教授
 山下 俊介様 大学院水産科学研究所 特任助教

日本建設業連合会 3名

鶴飼 亮行 五洋建設(株)
 津島 勲 (株)大本組
 吉田 征司 東洋建設(株)

・取組の概要

「海の分野のトップサイエンティストの早期発掘と育成」を目指した北海道大学独自の教育プログラムである。北海道大学の学生が主対象だが、コンテンツは完全オープンで配信していることが特徴であり、全国の学生、一般に対する社会教育にも役立てる内容である。高校生へのアピールも全国SSHを中心に積極的に行っている。

海と水産資源に関する教育研究情報をオンライン教材として集約しており、内容としては講義授業、野外実習、工場実習、学生実験の内容を動画化している。また、研究紹介やその基礎知識を学ぶ教材も配信している。

オンライン教材の開発は、北大教員とバランスドオーシャン運用部スタッフが行っている。



<https://repun-app.fish.hokudai.ac.jp/>

■サイト形式 (LASBOS Moodle)

人気の動画 ▶ すべて再生



(Eng sub) 二段圧縮冷凍機
(Two-stage Compression...)

8265 回視聴・2年前
字幕

(Eng sub) 一段圧縮冷凍機
(Single-stage Compression...)

6283 回視聴・2年前
字幕

<https://www.youtube.com/@user-pe9lw3ve6i>

■動画形式 (LASBOS YouTube)

パンフレット (北海道大学提供)

■カード形式 (LASBOS card)

図-3.3.4 バランスドオーシャン運用部 配信コンテンツ

取組の特色

➤ 人員体制の確保

事業期間は5年と限定的であるが、運用部の専属スタッフとして9名を配置している（内訳：特任助教2名、特定専門職員1名、パートスタッフ6名）。各種コンテンツは、北大教員70名ほどから提供される情報を元に、専属スタッフがオンライン教材化（開発）と発信を行っている。専属スタッフから各教員に情報提供を呼び掛けたり、重要テーマにおいてはスタッフが研究現場に行き動画撮影や教材化を主導するなど、専属スタッフの役割は大きい。

➤ 動機の明確化

コンテンツの制作において、ボランティアベースであったり、対象が想像上の利用者だけでは意欲を保てない。利用者が目の前にいることが教材づくりの動機を明確にする。また、研究や授業内容の詳細を発信することで、優秀な学生を勧誘できるとして、教員個人の利益も明確にしている。

➤ 現実社会との繋がり

基本的にはWeb上のコンテンツだが、オンライン教材の利用を仮想空間で閉じないよう配慮し、現実社会と結び付けることに力を入れている。そのための最初の取組みがコレクションカード風の「LASBOSカード」の開発であり、学内や図書館、水族館などで配布している。期間限定で商業施設とのコラボなども行っており、STV札幌テレビと北大によるSDGsデー（2022.7.29）や24時間テレビ（2022.8.27-28）でLASBOSカードを利用したイベントが催されている。

➤ 効果の把握と対処

運用を開始してから事業の効果を把握するための学内アンケートを実施している。その結果から配信コンテンツに対する認知度が低いことを把握し、対策として、学内宣伝の強化や全国のSSHを中心とした高校生や予備校へパンフレットを直接配布するなどの取組みが行われている。また、SNSを開設し、専属スタッフにより隔日での情報発信や、フォロー投稿への返信などの対策が取られている。

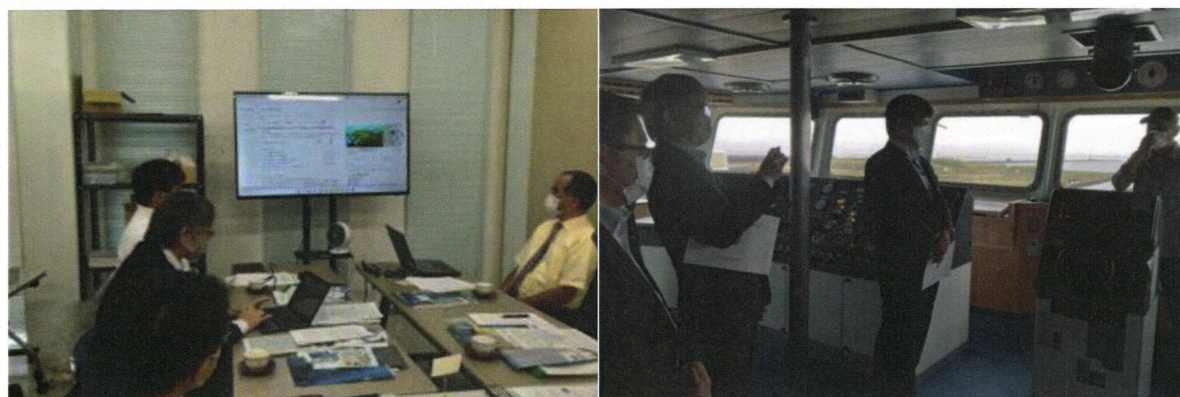


図-3.3.5 ヒアリング及び施設見学状況